

13. 筋骨格系・結合組織の疾患

文献

伊藤和憲. 高齢者の慢性疼痛に対するトリガーポイント鍼治療の有用性-慢性腰痛に対する鍼治療の有用性- 慢性疼痛 2004; 23(1): 83-8. 医中誌 Web ID: 2005066965

1. 目的

高齢者の慢性腰痛に対するトリガーポイント鍼治療と背部経穴への鍼治療の有効性の比較

2. 研究デザイン

ランダム化比較試験 (封筒法) (RCT-envelope)

3. セッティング

明治鍼灸大学附属病院整形外科、京都、日本

4. 参加者

6か月以上腰痛が持続している 65 歳以上の高齢者 18 名

5. 介入

Arm 1: トリガーポイント治療群 (9 名)。ステンレス製ディスプレイ鍼 (0.16×40mm および 0.18×50mm) を、触診によって検出したトリガーポイント 18 カ所以内の 10 分間置鍼。週に 1 度の治療を 3 回行った後 (3 週間) 3 週間の無治療期間を置き、これを 1 クールとし、2 クール行った (計 12 週)。

Arm 2: 経穴治療群 (9 名)。ステンレス製ディスプレイ鍼 (0.16×40mm) を背部経穴 (腎兪 (BL23)、大腸兪 (BL25)、環跳 (GB30)、上髎 (BL31)、中髎 (BL33)、秩辺 (BL54)、委中 (BL40)、昆崙 (BL60)、陽陵泉 (GB34)) に 10 分間置鍼。治療頻度、期間は Arm1 と同様。

6. 主なアウトカム評価項目

腰下肢痛の程度に対する Visual analogue scale (VAS) を治療開始前 (1 回)、各治療の 1 週間後 (6 回)、無治療期間終了時 (2 回) の計 9 測定。Roland Morris Disability Questionnaire (RMDQ) を治療開始前 (1 回)、各治療期間終了時 (2 回)、各無治療期間終了時 (2 回) の計 5 回記録。

7. 主な結果

VAS は Arm 2 と比較して Arm 1 で高い効果がみられた。RMDQ は両群ともに治療前と比較して改善がみられた。

8. 結論

高齢者の腰痛には、経穴治療に比べてトリガーポイント鍼治療の方がより有効である。

9. 鍼灸医学的言及

高齢者の腰下肢痛の発生にはトリガーポイントの形成が関与している可能性について言及している。

10. 論文中の安全性評価

記載なし。

11. Abstractor のコメント

本研究は、経穴治療とトリガーポイント鍼治療の有効性を比較した点が興味深く評価できるが、結果の解析において P 値の記載がなく統計学的検討がなされていない点、また、症例数が少ないことやフローチャートがないことについても改善の余地がある。高齢者においてトリガーポイントのような筋肉に対する治療の必要性についての実証を試みた貴重な研究であると考えられる。

12. Abstractor and date

保坂政嘉 2011.09.11